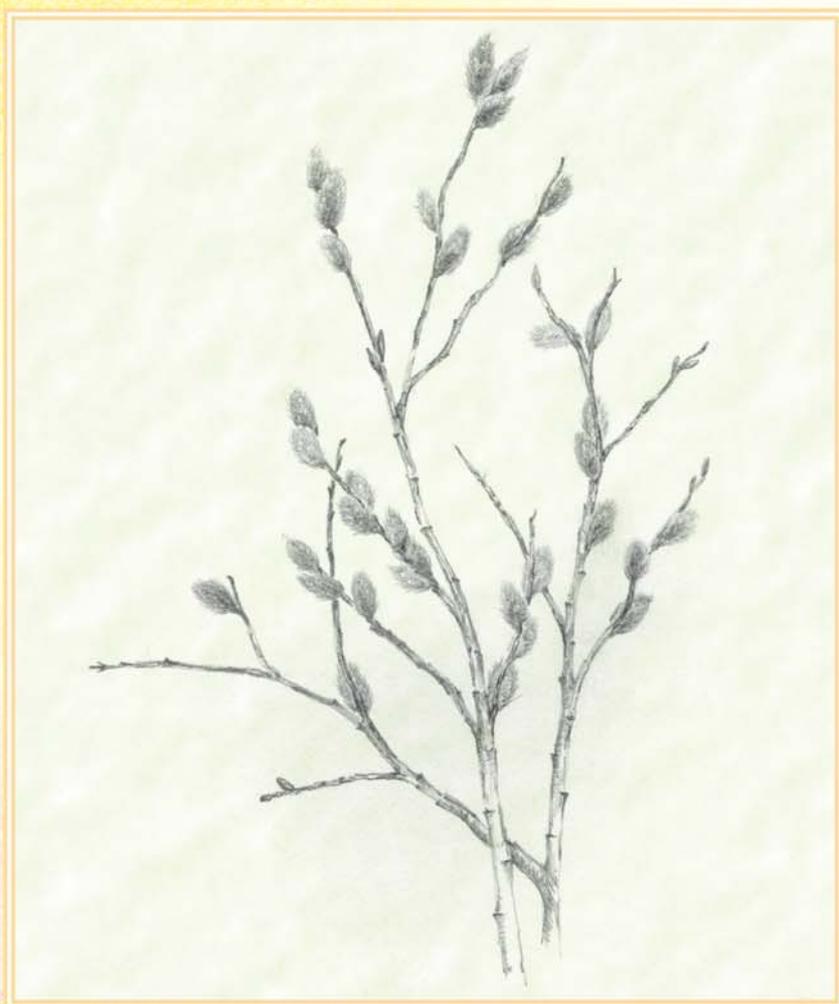


文部科学省委託
問題を抱える子ども等の自立支援事業

いじめ問題の 解決に向けて

Ⅲ



平成22年 3 月

愛媛県教育委員会人権教育課

はじめに

平成18年度以降、いじめ問題がマスコミ報道等によって大きく取り上げられ、この問題に対する学校や家庭、地域社会の意識や取組の在り方が厳しく問われています。

愛媛県においても、教育に携わる関係者一人一人が、いじめは「命にかかわる重大な人権問題」であり、「どの学校でも、どの子にも起こりうる」ことを再認識しながら、未然防止や早期発見・早期対応に努めているところです。

県教育委員会では、いじめ問題の解決に向けた取組をより一層充実させるため、いじめ問題に焦点を当てた資料「いじめ問題の解決に向けて」を平成19年度以降毎年作成し、学校教育や社会教育において積極的に活用していただくよう働きかけてまいりました。

本資料では、いじめ問題への対応において、学校・家庭・地域・関係機関等のネットワークを生かした地域ぐるみの取組が不可欠であることから、文部科学省の委託を受け、西予市において取り組んでいる「いじめ対策ネットワーク研究」の推進状況や成果について紹介しています。

また、昨年度は、インターネットの普及により、ネット上のいじめや電子掲示板等への悪質な書き込みなど、インターネット上の人権侵害が深刻な社会問題となっていることから、これらの解決に向けた具体的な取組について掲載しました。

今年度は、学校や家庭においていじめを未然に防止し、いじめを許さない気運の醸成や集団づくりにつながる様々な教育活動と取組を取り上げました。

既に、それぞれの学校や家庭、地域の実態に応じて、いじめ問題の解決に向けた取組が行われていますが、本資料がそうした取組の充実に役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、本資料の作成にご尽力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

平成22年3月

愛媛県教育委員会人権教育課長

目 次

はじめに

第1章 いじめ対策ネットワーク研究

- 1 研究の概要（西予市）..... 1
- 2 研究推進学校群（城川中学校、魚成・遊子川・土居・高川小学校）の取組..... 2

第2章 いじめの未然防止に向けた取組

第1節 小学校

- 低・中・高学年でよく見られる特徴と指導のポイント.....11
- 低学年学級活動「チクチクことばとふわふわことば - みんななかよくしよう - 」...12
- 低～高学年学級活動「こんな時、どうする？ - みんななかよくしよう - 」.....13
- 中学年学級活動「なくそう！いじめ - みんなで考えよう - 」.....14
- 高学年学級活動「君はその時どう動く - みんなで解決しよう - 」.....15

第2節 中学校

- 中学校の時期の課題と指導のポイント.....17
- 特別活動「いじめについて考えよう」.....18
- 生徒会活動「人権サークル『リバティ』の取組」.....21

第3節 高等学校

- 望ましい人間関係づくりと指導のポイント.....24
- ホームルーム活動、総合学習「私メッセージで伝えよう」.....25
- ホームルーム活動、総合学習「人間関係づくりに向けた取組」.....28
- ホームルーム活動、総合学習「ネットいじめに対する取組（プロフを通して）」...30

第4節 家庭教育

- いじめの未然防止につながる家庭教育.....33
- ワークシート「こんな夕食どう？」.....34
- ワークシート「わたしが言いたいことは.....」.....35
- ワークシート「家族のHappyコミュニケーション」.....36
- ワークシート「家庭におけるいじめ発見チェックポイント」.....38

参考

- 「ネット上のいじめの実態把握に向けて」.....39

作成委員名簿等

第1章 いじめ対策ネットワーク研究

1 研究の概要

(1) 研究テーマ

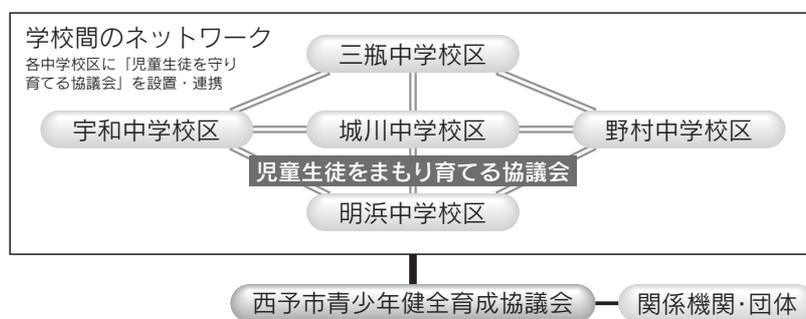
互いを認め合う生徒の育成 ～いじめの未然防止・根絶を目指して～

(2) 研究テーマを設定した背景

本市の児童・生徒の多くは、素直で明るく、真面目で、地域の中で温かく見守られながら生活している。本年度、大きないじめ問題は発生していない。しかし、小規模校が多い本市においては、人間関係が固定されがちであり、一旦人間関係がこじれるとよりよい人間関係に変えていくことができにくい状況もある。いじめ問題は、本市でもいつ起こってもおかしくない問題であり、危機意識をもって、未然防止のためのネットワークを築いていく必要がある。

(3) 取組

ア 推進体制



イ 「いじめの根絶」を目指した学校教育全体での取組

各学校において、生徒指導体制の確立や道徳教育の充実、仲間づくりを推進する。

ウ 小・中学校、家庭や地域・関係機関との連携

小・中学校間における児童生徒及び教師の交流や情報交換に努める。「児童生徒をまもり育てる協議会」や「西予市青少年健全育成協議会」により、学校や関係機関、家庭・地域との連携を深め、協力・支援体制を確立する。

エ 相談事業の実施

「ハートなんでも相談員」「スクールソーシャルワーカー」「スクールカウンセラー」「西予市教育電話相談員」の配置により、いじめの早期発見・早期解決を図る。

(4) 考察

本市のいじめ認知件数は、本年度減少し、認知されたいじめも、すべて早期に解決している。これは、それぞれの中学校区で取組を推進してきた成果であるが、今後、城川中学校区での取組の成果をさらに市全体に広げていきたい。

西予市のいじめ認知件数（件）

	小学校	中学校	合計
平成19年度	11	30	41
平成20年度	8	60	68
平成21年度	1	20	21

（平成21年度は、1月末現在）

西予市では、子どもたちは、「地域の宝」として、地域の中で温かく見守り育てられている。今後も、各学校で危機意識をもって、いじめの根絶を目指した取組を継続するとともに、地域ぐるみでいじめ根絶に向けた取組ができるよう、さらなる連携を図っていく必要がある。

2 研究推進学校群の取組【城川中学校、魚成小学校、遊子川小学校、土居小学校、高川小学校】

(1) 研究の概要

ア 研究主題

「互いを認め合う生徒の育成 ～いじめの未然防止・根絶を目指して～」

イ 主題設定の理由

本校は、1年生27名、2年生33名、3年生36名、全校生徒96名、各学年1クラスの小規模校である。校訓を「自主・創造・共生」とし、「豊かな心を持ち、たくましく生きる心身ともに調和のとれた生徒を育てる」ことを教育目標に掲げ、その具現化に努めている。

校区の魚成小、遊子川小、土居小、高川小の4つの小学校はいずれも小規模校であり、魚成小以外は複式学級がある。

生徒は、明るく、素直で伸び伸びと育っている。一方、小学校から中学校まで9年間一度もクラス替えがなく、人間関係は固定しがちである。そのため、よりよい人間関係に変えていこうとすることができにくい面や物事に対する姿勢として保守的な面も見られる。昨年度認知したいじめは8件であったが、いずれも集団で、継続的にいじめているものではなく、教育相談と指導によって解決したものである。

以上の実態から、大きないじめはないが、いじめは、どの学校でも起こりうる問題であり、その対策を日頃から進めておく必要性を感じる。何よりもいじめを未然に防止すること、そのために、家庭・地域、小学校との連携を見直し、心を育てる教育を充実させ、互いに認め合う生徒の育成を図ることが大切であると考え、この主題を設定した。

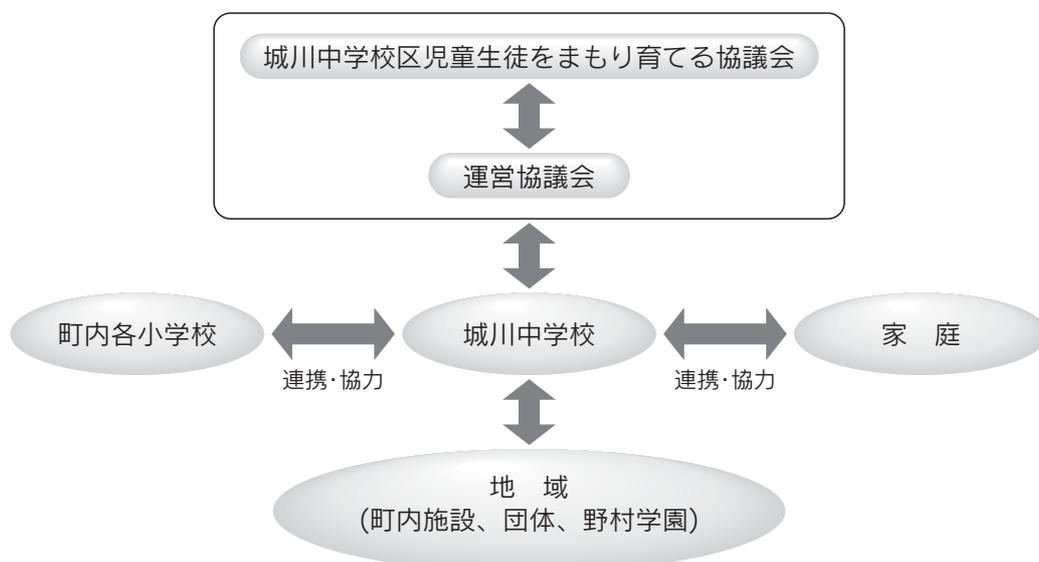
ウ 研究の内容

(ア) 家庭・地域との連携強化

(イ) 小・中学校の連携強化

(ウ) 人間としての在り方生き方を考える教育の充実（心を育てる教育の充実）

エ 調査研究の推進組織体制



オ 検証の視点、方法

- (ア) について：保護者へのアンケートや児童生徒を守り育てる協議会や運営協議会などでの評価
- (イ) について：児童、生徒の変容の様子の観察、小・中の情報交換などでの評価。
- (ウ) について：Q - Uテストや生き方アンケート、生活調査などによる客観的評価。

(2) 研究の実際

ア 家庭・地域との連携強化

(ア) 家庭や地域への啓発や情報発信

学校だより等による啓発活動

学校グランドデザインに、家庭・地域の期待に応える「特色ある開かれた学校」を取り上げ、家庭・地域との連携の強化を進めた。学校だよりには、「いじめ対策ネットワーク研究」にかかわる活動について掲載し、家庭だけでなく地域にも配布した。また、保護者啓発として、地区別懇談会において、いじめ対策ネットワーク研究の説明とともに、いじめの定義、家庭におけるいじめ早期発見シート、ジェントルハート講演会等について紹介をした。

校区別人権・同和教育懇談会の実施

校区別人権・同和教育懇談会を、西予市人権のつどい（城川会場）の日に合わせて実施した。中学校では、同和問題学習の授業を公開し、保護者だけでなく、地域の方や小学校の先生方にも見ていただいた。

人権のつどいでは、「トーク&コンサート」として、両目を失明しながらもピアノレッスンを続け、盲導犬と共に演奏と公演活動続けている清水紘子さんのピアノ演奏を聴いた。地域の方々とともに、全校生徒も聴くことができ、演奏会后、質問をしたり、感想を述べたりするなどふれあいの時間をもつことができた。



小学生の感想

目が見えないのに私よりずっとずっと上手で、すごく温かかったです。このような演奏ができるのは、今までの努力があったからだと思います。私もこれからつらいことや苦しいことがあるかもしれませんが、その時は、強い気持ちで立ち向かっていきたいと思います。何をやっても最後まであきらめず、がんばりたいです。音楽のすばらしさ、心の目で弾けていてすごいです。とってもいい一日になりました。

また、この機会に全校生徒で人権標語を作り、人権委員会が中心となって掲示した。保護者の方や先生方にも標語募集をして、冊子に掲載し、啓発の一助とした。

【人権標語】

「やさしい一言 笑顔の花咲く 種なんだ」
「優しさが いじめの殻を 破るんだ」
「優しさと 笑顔で広がる 仲間の輪」

- (イ) 児童生徒をまもり育てる協議会（生徒指導総合連携推進委員会）との連携
児童・生徒の状況についての情報交換

地域・PTA連携による登下校の見守りとあいさつ運動の実施

生徒が作成した、いじめ防止に関する標語の看板を自転車置き場などへ設置



(ウ) 地域の人々とのつながりを深める体験活動の実施

これまで行っていた地域での体験活動を充実させることにより、「地域とつながっている」、「地域の人々に大切にされている」という実感をもたせること、また、地域に貢献する活動をとおして、「自分が他の人の役に立つんだ」という自己有用感を高め、充実感をもたせることができると考えた。

職場体験学習（中学校2年生）

地域貢献ボランティア

3年生では、総合的な学習の時間のテーマを「地域に貢献しよう」とし、地域の課題を見つけ、地域に貢献する活動として、福祉施設（高齢者福祉施設・障害者福祉施設・保育所など）でのボランティア活動を行った。ねらいは次の三つである。



魚成保育所

地域の課題を見つけ、解決していく力を身に付ける。
人々のしあわせについて考え、助け合い、支え合う力を身に付ける。
地域貢献活動をとおして、人々に役立つ喜びを感じる。

特に、「助け合い、支え合う力を身に付ける」こと、「人々に役立つ喜びを感じる」ことによって、自己肯定感を高めることも目的としている。

各小学校での活動

どの小学校も小規模であり、地域の方の支えなしでは学校の教育活動を行うことはできにくい。小学校でも同じように地域の人とつながり合う体験をとおして、人を思いやる心、社会性や豊かな人間性をもった児童を育てようとしている。



遊子川小祭り

イ 小・中学校の連携強化

(ア) 小・中学校の情報交換の機会の促進

運営協議会や児童生徒をまもり育てる協議会での情報交換の前には、授業参観の時間を設定し、生徒の様子を見ていただいた。また、小学校の研究会や、学年部の授業研究、校区別人権・同和教育懇談会に、中学校から積極的に参加するようにして、相互に児童・生徒の様子を見る機会を多く設けた。



魚成小人権教育参観日

(イ) 児童生徒の交流の機会を拡充

小学校の運動会等への参加

各小学校の運動会においては、学校全体で部活



高川小運動会

動を休みとし、中学生が参加できるようにした。さらに、学習発表会などにもすすんで参加し、準備から後片付けまで、協力する姿が見られた。

青少年赤十字交流会

青少年赤十字活動では、城川支部において、夏休みに青少年赤十字交流会を行っている。小・中学生の交流を図り、レクリエーション、アメノウオのつかみ捕り、^{あまつみ}雨包山の伝説を聞く活動などを行い、楽しい時間を過ごした。

(ウ) 小・中学校、地域合同の講演会の企画

ジェントルハート講演会

10月には、ジェントルハート講演会を企画し、一人娘をいじめによる自殺で亡くされた、NPO法人ジェントルハートプロジェクト理事の小森美登里氏を招いた。この機会に小学校にも呼びかけ、高学年の児童が参加して、一緒に講演を聴いた。普段は、あまり感情を表に出さないような児童や生徒が涙ぐんで、一生懸命話を聴く姿が見られた。

最後に、すべての子どもたちへメッセージとして、「生まれてきてくれてありがとう」の詩を送っていただいた。



小森美登里氏

小学生の感想

いじめをされたときの気持ちがよくわかりました。かすみさんは、逃げ出した気持ちだったと思います。いじめは人の心までけがす行為だと思います。「どうしていじめられるの?」「この世界がきれいだ」って思う人もいます。そんな人の気持ちが今ならわかります。「生まれてきてくれてありがとう」この言葉が一番心に残りました。そんな人たちにも、今すぐに、「生まれてきてくれてありがとう」って言いたいです。「優しい心が一番なんだよ」というかすみさんの言葉、本当にそうだと思います。これから、優しい心を大切にしたいです。

村上幸史選手講演会

子どもたちが、夢をもって生きることのすばらしさを学び、自己実現を支援するために、村上幸史選手を招き、講演及び交流会を行った。この交流をとおして、出会いの大切さ、感謝する心、夢に向かって進むことすばらしさ、試練を乗り越えたところに見えるものなど、これからの小・中学生に大切なことを伝えていただいた。



村上選手とともに

(エ) 6年生の中学校体験入学

中1ギャップを防ぐ一つの対策として、これまで各小学校へ出向いて中学校の説明会を行っていた。今年度は、やり方を改め、小学生とその保護者を中学校に招き、体験入学を行うことにした。当日は、まず、学校のきまり等の説明を聞き、中学校の授業参観、1年生との交流学习、部活動参観を行った。半日ではあったが、入学してからの不安を少しでも取り除くことができたのではないかと考える。



交流学习

小学生の感想

一日体験入学をして私は中学校に行きたくになりました。先輩も先生も優しくてもしるそうでした。先輩からもらった名刺には「中学校は楽しいぞ」とか「困ったことがあったら聞いてね」とか書いてあったので安心しました。(略)

ウ 人間としての在り方生き方を考える教育の充実(心を育てる教育の充実)

(ア) 地域素材とゲストティーチャー(GT)を活用した心に響く道徳教育の充実

「生き方アンケート」の分析と全体計画の作成

生徒の道徳性を把握するために、一昨年度から、「生き方アンケート」を年に2回実施してきた。アンケートの24の項目については、十分に検討を重ねて決定したものである。今年度も継続して5月と12月に実施した。

このアンケートの結果から、明らかに向上している項目、さらに伸ばしたい項目、不十分な項目などを分析し、各学年の重点項目および道徳教育の全体計画を作成した。また、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間との関連がわかるようにした。年間指導計画では、心のノートの関連ページを明記したり、体験活動との関連を加えたりした。

地域素材の教材化

生徒にとって最も身近である地域の人や自然、文化などに触れることにより、豊かな感性が育ち、より内面的な自覚を促すことができ、ふるさとに愛着を持つ生徒が多くなるのではないかと考えた。そのことが、さらに人間の在り方生き方をしっかりと考えることにつながるのではないかと考え、一昨年度から、自作郷土資料の開発と、ゲストティーチャーの人材発掘に取り組んだ。その結果、7編の地域教材を開発し、授業実践を行った。

地域教材とGTを活用した授業実践事例(第1学年)

主題名 生命の尊重〔3-(2)〕(資料名「裕美ちゃん記念日」)

ねらい 1枚のかまぼこ板の絵に込められた裕美さんの思いや、両親の愛情の深さに気付かせることによって、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

地域教材例

学年	主題	資料名	内容	体験活動との関連
1	愛校心 郷土愛	わが城川町に幸あれ 一校歌に思いを託しー	校歌の作詞者の談話をとおして、 愛校心・郷土愛について考える。	入学式校歌斉唱
1	生きがいの ある人生	「かまぼこ板の絵」展 覧会	展覧会の開催にこぎつけた方々の 苦労とその思いを考える。	「ギャラリーしろ かわ」訪問
1	生命尊重	裕美ちゃん記念日	作品を見ることなく天国に旅立っ た中沢裕美さんとその両親の姿か ら、命の大切さについて考える。	「ギャラリーしろ かわ」訪問

展開例(省略) | 「心に響け 愛媛の道徳教育」
資料(省略) | (愛媛県教育委員会平成21年3月発行に掲載)
ギャラリーしろかわ館長浅野幸江さん(GT)の声

11月7日付、愛媛新聞「四季録」掲載より 一部省略

授業も残り10分という時、先生が「私は今まで人生の中で、教え子を亡くした時が、一番悲しくてつらかった。だから、みんなは私より先には死んではいけません。絶対に！」と声を詰まらせた。先生を見つめている生徒たちの目に涙があった。この授業が、文部科学省委嘱の公開授業だったことも忘れていた。50分のドラマを見ているようだった。そして、これが城川中学校の日頃なんだろうと思った。
(浅野 幸江・ギャラリーしろかわ館長)

(イ) 集団活動における仲間づくりの工夫

Q - Uテストの実施と生徒の実態の分析

仲間づくりを進めるにあたって、「生き方アンケート」とともに、Q - Uテストを5月に行い、生徒の実態を各学年で分析した。本校のアンケート結果では、どの学年も学級生活満足群の割合が非常に高かった。この結果をもとに、各学年部で改善策について話し合いをもった。

1年部での分析と対策

- 1 ひとりひとりの生徒の所属感を高める。
- 2 基本的なしつけを身に付けさせる。
- 3 個別の教育相談、声かけを工夫する。

2年部での分析と対策

- 1 所属感や満足感を持たせる工夫をする。
- 2 修学旅行などをとおしてリーダー育成をする。
- 3 個別の教育相談、声かけを工夫する。

3年部での分析と対策

- 1 運動会等の行事で所属感、充実感をもたせる。
- 2 生徒が相互にかかわり合える場の設定をする。
- 3 個別の教育相談、声かけを工夫する。

各学年部の話し合いをもとに、全体で実践することについて、次の2点を共通理解して取り組むことにした。

充実した集団活動を工夫し、所属感を高める工夫をする。
ひとりひとりの生徒への声かけと教育相談を充実させる。

学級の集団づくりの工夫（グループエンカウンターやアサーションの導入）

集団づくりを具体的に実践するための手法として、グループエンカウンターが有効であると考え、夏休みに愛媛県カウンセリング協会より、講師を招いて研修を行い、その成果を学級活動等に取り入れ、人間関係の改善を図った。

各小学校でも、グループエンカウンターやアサーショントレーニングなどを取り入れ、仲間づくりを工夫していった。



エンカウンター研修



土居小アサーションの授業



魚成小グループエンカウンターの授業

教育相談の充実

どの学年とも教育相談やひとりひとりへの声かけが大切であると考え、生徒の希望をもとに全教職員による教育相談を各学期1回行った。

また、昨年度まで本校の教育相談員であった臨床心理士の徳田美保先生に、各学年一単位時間ずつ、「コミュニケーションの大切さ」と題し、6回講話をしていただいた。そして、その後希望者について、カウンセリングの時間を設定した。

異年齢集団活動（ブロック活動）の工夫と充実

異年齢集団（ブロック）活動を年間を通じで行い、3年生のリーダー性の育成とともに、集団活動の喜びを体験できるようにした。

11月の文化祭では、毎年、ブロックで3年生を中心に、テーマに沿った劇を作り、みんなで発表している。今年は、「笑顔・やさしさ」をテーマとしてシナリオを作成し、いじめ問題を取り上げ、見事に演じたブロックもあった。

終業式では、2学期の思い出を五七五で表現する場を設け、いじめの劇をとおして、「思いやりの大切さ」に改めて気付いたことをある女子生徒が発表した。

ブロック活動年間活動計画

4月	ブロック結団式
5月	ウォークラリー遠足
8月	ブロック練習
9月	運動会
10月	文化祭ブロック劇
3月	ブロックマッチ



「いじめはね 人の心を傷付ける 気付こう 思いやり」

文化祭で、「いじめ」についての劇をしました。友達がいじめで傷付き、そしていじめから気付く思いやりが大切だということを表現しました。



生徒会活動での取組

専門委員会においても、仲間づくりの活動と掲示を行っている。そのため校内には、互いを認め合う掲示が様々なところで見られるようになった。

【人権委員会】 人権標語や「言われてうれしい言葉」の掲示

【保健体育委員会】

「友達のいいところを紹介しよう」の掲示

【青少年赤十字委員会】

「THANK YOU カード」の掲示

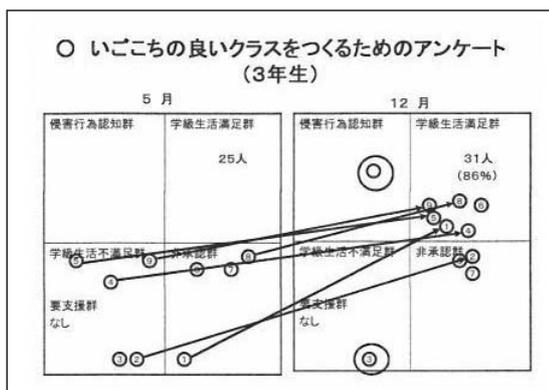


(3) 成果と課題

ア 成果

(ア) 家庭・地域との連携強化

地域の中に入って活動させていただくことにより、地域の人とつながっているという安心感、ボランティア活動によって自分が役に立っているという自己有用



〈3年生〉

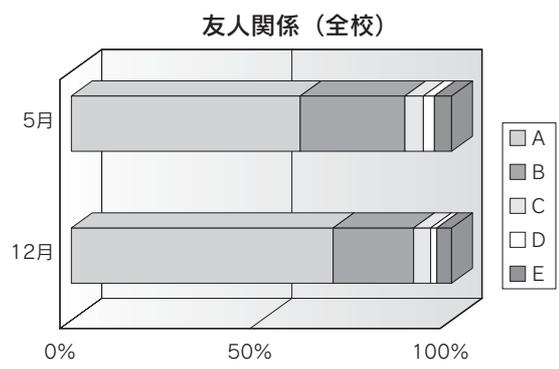
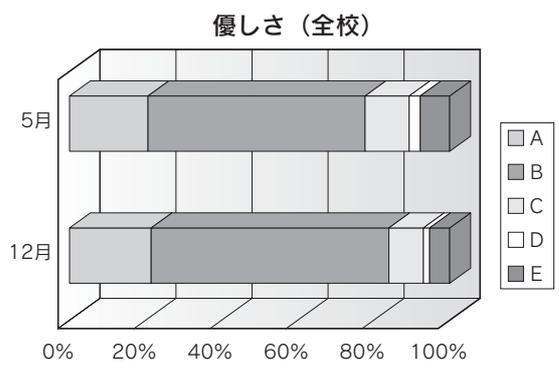
学級生活満足群に属する生徒が86%にもなっている。各種行事におけるリーダーとしての活動などをとおして所属感や満足感が高まってきたと考えられる。しかし、5月も12月も非承認得点がかなり低い生徒がいる。現在は学級担任との相談のもと進路の希望をもってがんばっている。

【生き方アンケートの結果より】

(A:よくいる B:だいたい C:あまり D:いない E:わからない)

設問2 悩んだり困ったりしている友達(人)を助けることができますか。

設問19 悩んでいるときに、相談できる人がいますか。



〈学年の特徴〉
1年生ではやや低下している傾向が見られる。2年生では、設問2については80%以上が助けられると答えている。3年生では、どちらの設問に対しても、90%程度の生徒ができると答えている。1年生から2年生の時期にかけては、やや低下する状況がある。これは、調査した時期にもよるとは思うが、3年間の中で、この時期は、思春期に入る時期であり、中学校生活に慣れ、やや目標を失いがちな時期でもある。この時期の生徒へのかかわり、働きかけは、今後、取り組んでいかなくてはならないと考える。

イ 課題

- (ア) 共通理解のもと、生き方アンケートやQ - Uテストの結果などをさらに個別の指導に生かし、集団づくりのグループエンカウターの実施などとあわせて、より効果的な仲間づくりを進めていくこと。
- (イ) 小・中学校の9年間から、さらに高等学校を含めた12年間を見通した連携を深めていくこと。
- (ウ) 地域との結びつきを大切に引き継ぎ、心を育てる教育を充実させていくこと。

第2章 いじめの未然防止に向けた取組

第1節 小学校

小学校の時期は、児童の心身の成長が著しく、各学年の児童の特徴には大きな差が見られる。そこで、いじめ問題の根絶に向けた取組でも、各発達段階での特徴を踏まえたうえで、その成長に応じた適切な対応や学習活動を進める必要がある。

今回は、低・中・高学年によく見られる特徴を踏まえ、指導のポイントを明らかにするとともに、具体的な対応（指導）方法の例をあげた。

【よく見られる特徴】

低学年では

学校生活の新しいスタートを切り、性格や考え方の違う多くの友達と出会い、たくさんの刺激を受ける。この時期の児童は、まだまだ自己中心的な言動をとることが多く、友達との違いに違和感をもつ。ちょっとしたいさかいでも、事実関係を客観的に認めたり、気持ちをうまく伝えたりすることができにくい。

【指導のポイント】

「みんななかよくしよう」

いっしょに活動する楽しさを味わおう。
正しいこと、正しくないことを自覚できる力を付けよう。
友達との接し方や集団のルールなど基本的なスキルを身に付けよう。
→ 低学年実践事例（P12.13）

中学年では

気の合った児童が小集団で活動する場面が多くなり、他の児童の影響を強く受ける時期である。そのため、排他的になったり、友達を序列的に見ることはいじめや仲間はずしにつながる場合がある。集団の活動をとおして、様々な人と交流し協力する素晴らしさを感じ取らせることが大切になる。

「みんなで考えよう」

集団の中で、友だちの気持ちや立場に立って考える力を伸ばそう。
→ 中学年実践事例（P14）
勇気をもって、正しい行動ができる力を身に付けよう。
自尊感情の基礎をしっかりと育てよう。

高学年では

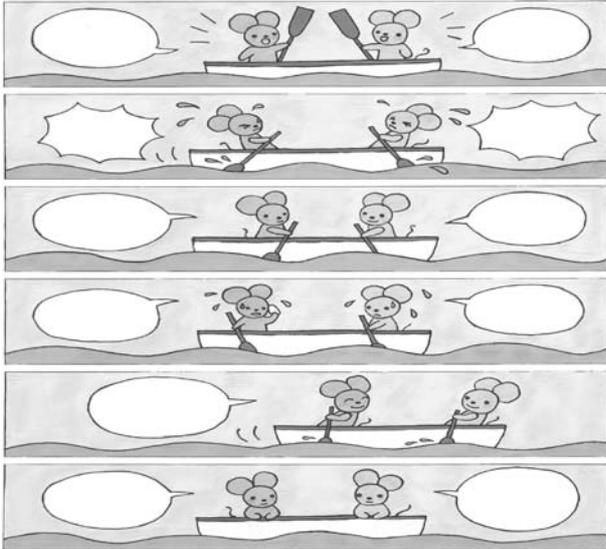
相手の立場に立って考える力や仲間意識が高まり、いじめや差別に対しても、今までの表面的な見方から客観的なとらえ方ができるようになる。しかし、いじめや仲間はずしが許されない行為であることを理解しながら、見て見ぬふりをしたり、その解決に向けた行動がとれなかったりする場合がある。

「みんなで解決しよう」

多様な考え方や行動の仕方の違いなど、それぞれの個性を認め合おう。
不正を見抜き、問題の解決に向けてみんなで行動しよう。
→ 高学年実践事例（P15）
生命を尊重し、人権に対する意識を高めよう。

こんな時、どうする？ - みんななかよくしよう -

- ねらい 日常生活で起こりそうな問題を解決する方法を考え、友達と仲良く生活するためのスキルを身に付けさせる。
- 本時の指導

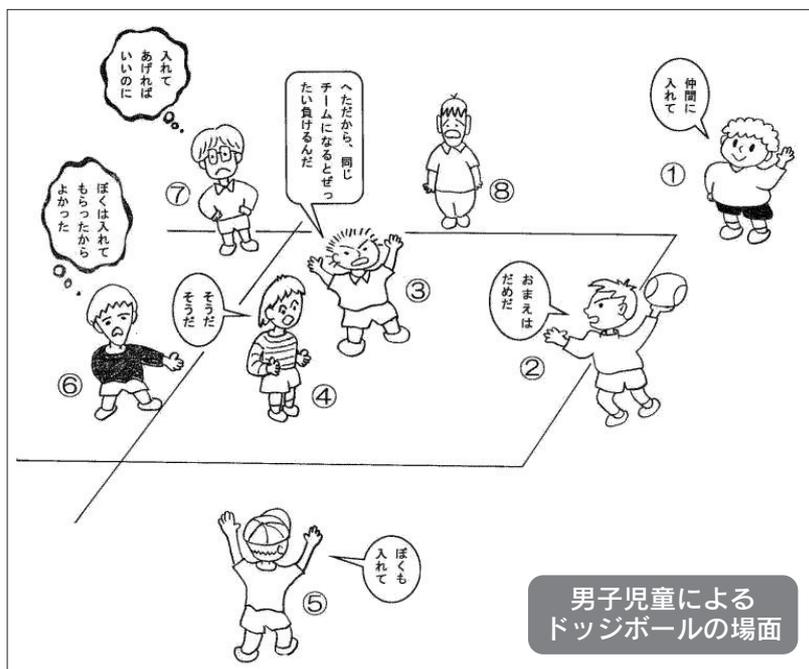
学習の流れ	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 小グループ（4人程度）をつくる活動を行い、ストーリーカードを受け取る。 吹き出しに、セリフを書き込みながらストーリーをつくる。 	<p>グループをつくらせ、6コマのカードを配る。</p> <p>2匹のネズミが対立を起こしていること、それを解決しようと相談していることを想像させながら、2匹のネズミのセリフを考えさせる。</p>
<p>【ストーリーカード 子ネズミ対立編】</p> <p>→資料P16</p>	
	
<ol style="list-style-type: none"> ストーリーを発表する。 自分の生活を振り返る。 振り返りを行う。 	<p>高学年においては、セリフとともに6コマのカードの順番を考えさせる展開を行ってもよい。</p> <p>発表に対して肯定的評価を行う。</p> <p>似たような状況が日常生活の中に存在していないか問いかけ、友達と仲良く生活しようとする意欲を高める。</p> <p>相手の気持ちや、立場を尊重しながら解決していくことの大切さに気付かせたい。</p>

きみはその時どう動く - みんなで解決しよう -

- ねらい 普段の何気ない言動の中にも、相手を傷つけてしまうことがあることをロールプレイを通して体験し、「される側」のつらさを共感するとともに、周りで見ている者がどうすれば仲間はずしを未然に防止できるかを考えさせ、その場に合った行動ができるようにさせる。
- 本時の指導

学習の流れ	指導上の留意点
1 ~ の配役を決めて、1回目のロールプレイをし、演技者・観察者それぞれの立場で感想を発表する。	配役・シナリオは適宜、変更してよい。 仲間はずしにされる側のつらさを十分に共感させるとともに、「する側」と「される側」の意識のずれに気付かせる。
2 仲間はずしが起きそうになった時、自分はどうしたらよいか考える。	どのような行動をとるか具体的に考え、ワークシートに書かせる。
3 2で考えた内容で2回目のロールプレイをする。ロールプレイ後、1回目と同じように演技者・観察者それぞれの立場で感想を発表する。	1回目と配役を替えて演じさせる。 観察者にも、2で考えたことを実際のロールプレイの中で演じたいと思ったら積極的に参加させる。 傍観者(~)がどのような行動をとればよいかについても考えさせる。
4 学習の振り返りをする。	ロールプレイの後、感情のしこりがないように配慮する。

3 資料(ロールプレイの場面設定例)

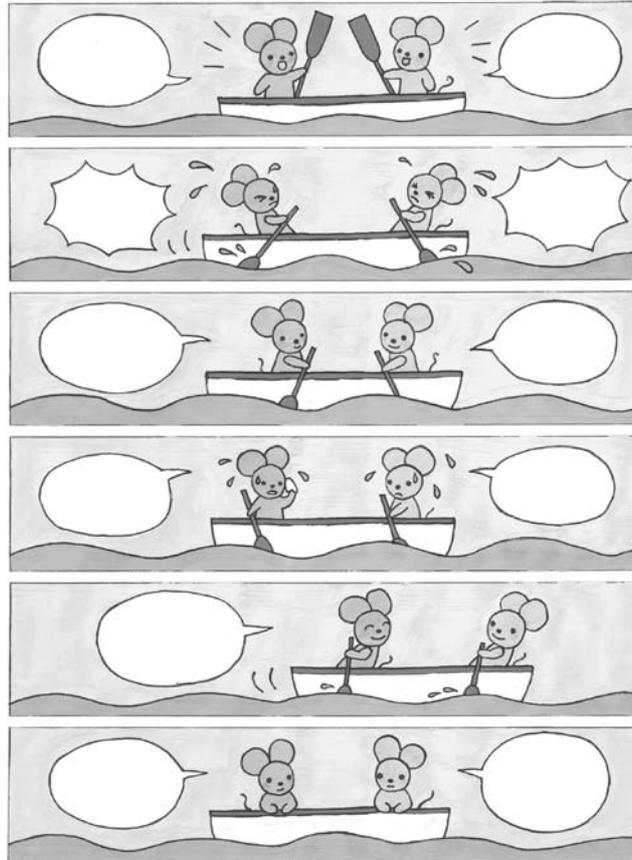


シナリオ例

..... 仲間に入れて。
..... おまえはだめだ。
..... どうしてだめなの。
..... へただから、同じチームになるとぜったい負けるんだ。
..... そうだ。そうだ。
..... ぼくも入れて。
..... いいよ、始めよう。

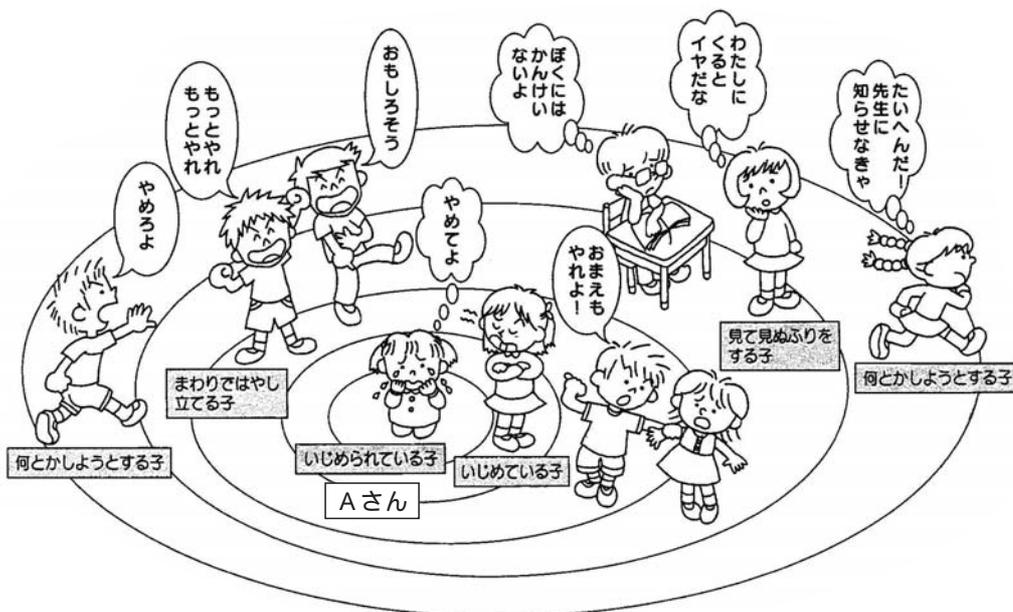
資料

【小学校低学年用】ストーリーカード 子ネズミ対立編



(出典 高知県教育センター 人権教育資料集4「えがおきらり」)

【小学校中学年用】いじめの仕組み



(参考 兵庫県教育委員会事務局人権教育課 高校生用人権教育パンフレット「かけがえのないあなただから」P3:[いじめ集団の4層構造])

第2節 中学校

1 中学校の時期の課題

子どもたちのいじめや暴力、非行、不登校、引きこもりなどの問題行動等が特に深刻化するのは中学生の時期である。なかでも、いじめの認知件数や不登校生が小6から中1にかけて一気に増える、いわゆる中1ギャップは大きな課題となっている。これは、中学生の時期が精神的にも不安定になりがちな思春期に入る頃であり、中学校進学に伴う様々な生活環境の変化から派生するストレスが、その主な要因であると考えられる。

また、不登校のきっかけとしていじめがかかわっている場合も見られ、いじめのない学級・学校づくり、言い換えれば、いじめを許さない仲間づくりに向けた取組は、極めて重要である。

2 指導のポイント

授業過程で、いじめの場面の様々な役割を生徒が演じるロールプレイを取り入れ、被害者・加害者・周囲の人の気持ちにしっかり共感させる。演技の上手・下手ではなく、真剣に演技することが大切であることを理解させるとともに、演じてみた感想を話し合うことで、互いの気付きの共有を大切にする。

→実践事例「いじめについて考えよう」(P18~20) 参照

傍観者ではダメと切り捨てる指導ではなく、周りの人の対応によっていじめはひどくなったり、止められたりすることに気付かせる。そして、自分にもできる解決策を考えさせることで、生徒のいじめ解決への実践力を培う。

→実践事例「いじめについて考えよう」(P18~20) 参照

自我が芽生えはじめる中学生の時期は、親や教師の指導を素直に受け入れられないこともある。そこで、みんなが安心して楽しいと感じられる学校づくりに向けた、生徒が主体となる活動(生徒会活動等)を適切に支援することで、内発的に生徒の人権意識を高める取組も大切にする。

→実践事例「人権サークル『リパティ』の取組」(P21~23) 参照

* * * * *

参考 「いじめについて考えよう」(第2時のワークシート [P20])

【いじめ解決案 例】“今、すぐ、ここで” できそうなことは？

1	一人でも「いじめはだめ」と止めに入る。
2	友達と一緒に止めに入る。
3	「いじめはだめ」とみんなで注意する。
4	いじめられている子を呼び、話しかける。
5	友達と一緒にいじめられている子を呼ぶ。
6	いじめられている子の手をとって逃げる。
7	「 しょう」と話題をそらす。
8	いじめの現場のまんなかを通り過ぎる。
9	現場にたたずんで、ジーとにらむ。
10	物陰から大声で、「先生がきた」と言って逃げる。
11	先生をさがして、止めてもらう。

いじめについて考えよう

1 ねらい

- (1) 第1時 周りの人の態度で、いじめられる子のダメージが大きく左右される体験をとおして、周りの人の対応によって、いじめはひどくなったり止められたりするということに気付かせる。
- (2) 第2時 具体的ないじめの場面を想定し、その時自分に何ができるかを考えさせることをとおして、いじめをなくそうとする態度を育てる。

2 学習の流れ

時	展 開	留 意 点
第 一 時	<ol style="list-style-type: none"> 1 日常生活をふり返る。 2 いじめの構造【被害者・加害者・周りの人(観衆・傍観者)】を理解する 3 資料を読む。→ワークシートP19 4 4人グループでロールプレイをする。 (1) 「パターン1」「パターン2」を続けて行い、終わったら感想を書く。 (2) 感想を書いた後、役割を交代し、全員がすべての役割を体験する。 4 感想をクラスで発表し合う。 5 いじめについて考える。 6 まとめをする。 	<p>いじめに関するアンケートをとっておく。</p> <p>登場人物が、被害者・加害者・周りの人のどれにあたるか確認する。</p> <p>真剣に取り組ませる。 すべての役割で、演じた感想を書かせる。</p> <p>「パターン1」「パターン2」の時の感想を比較させる。</p> <p>周りの人の対応でいじめはどう変わるのか、意見交換する。</p>
第 二 時	<ol style="list-style-type: none"> 1 いじめの場面を設定した資料を読む。 →ワークシートP20 2 自分がとれる行動を考える。 3 班で発表し合う。 4 学級全体で話し合う。 5 まとめをする。 	<p>自分が置かれている状況や立場から、自分に何ができるのかをしっかりと考えさせる。</p> <p>自由に言える雰囲気をつくっておき、全員に発表させる。</p> <p>「人はそれぞれ違う」ということを押さえ、どんな意見であっても受け入れるように促す。</p> <p>出た行動案について、本当にできるかどうか話し合わせる。</p> <p>いろいろな行動案を発表させ、様々な行動ができることに気付かせる。</p> <p>感想を書かせる。</p>

いじめについて考えよう

年 組 番 氏名()

「星のおはじき」

ある朝、学校であやちゃんが、赤い布の袋からたくさんのおはじきをざらっと机の上に出した時、女の子はみんな、あやちゃんの机の周りに集まりました。そして口々に「きれい。きれい。星のおはじきね」と言いました。

A = あやちゃん「ねえ、すごいでしょ。星のおはじきよ」

B = 友達その1「きれいねえ、さわらせて」

A = あやちゃん「うん、いいよ!!」

C = 友達その2「私にもさわらせて」

A = あやちゃん「どうぞ、どうぞ!!」

D = わたし 「私もさわっていい?」

A = あやちゃん「さわらないで。あなたがさわるとよごれるわ」

1 「パターン1」「パターン2」で、ロールプレイをしてそれぞれの役を演じた時の気持ちを書こう。

【パターン1】

D = わたし 「私もさわっていい?」

A = あやちゃん「さわらないで。あなたがさわるとよごれるわ」

B = 友達その1「そうよ、いやぁねえー」

C = 友達その2「だぁーめ、来ないで!」

1回目 役割()

2回目 役割()

【パターン2】

D = わたし 「私もさわっていい?」

A = あやちゃん「さわらないで。あなたがさわるとよごれるわ」

B = 友達その1「そんな意地悪しないで、見せてあげたら」

C = 友達その2「いいじゃないの、貸してあげても」

3回目 役割()

4回目 役割()

2 いじめについて、考えたことを書こう。

年 組 番 氏名 ()

「いじめ・目撃」

教室の後ろで、同級生3人(A・B・Cさん)が遊んでいました。よく見ると、AさんとBさんが、Cさんに対して、笑いながら強い口調で命令したり、Cさんがいやがることをおもしろがってやらせていました。止めたいのはやまやまですが、止めに入ると、自分にも同じことをされそうな気がします。

さあ、あなたはどうしますか？

- 1 自分がとれる行動を考えましょう。

《アドバイス》

自分も怖いと意識してください。同級生ではなく、先輩という設定にしても構いません。しかし、黙って通り過ぎることだけはやめてください。いじめに立ち向かおうと考えて、自分にできそうなできる限りの具体的行動案をたくさん考えてください。

- 2 班で話し合しましょう。(自分と違う行動案を書きましょう。)

《アドバイス》

全員が発言しましょう。一つにまとめるのではなく、いろいろな行動案を出し合しましょう。友達が出した行動案について、本当にできるのか意見交換しましょう。

- 3 学級全体で話し合しましょう。(班で出なかった行動案を書きましょう。)

《アドバイス》

自分が気付かなかった行動案、班で出なかった行動案に注目しましょう。また、【いじめ解決案 例】(P17に掲載)も参考にしてみましょう。

- 4 授業を終えての感想を書きましょう。

人権サークル「リバティ」の取組

1 「リバティ」(仮称)の概要

(1) 立ち上げの経緯

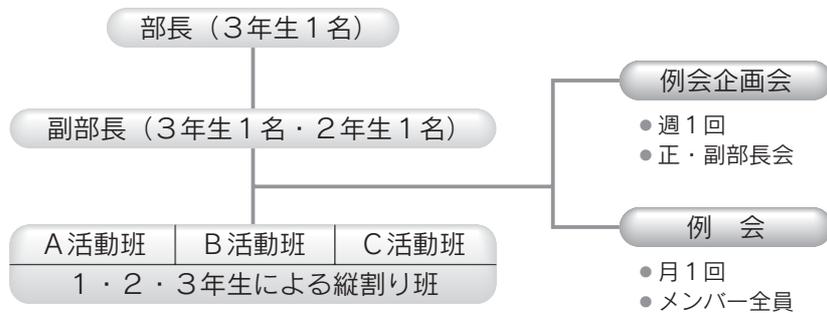
いじめを苦にした自殺が社会問題化する中、不幸な事件を経験した学校で人権サークルが設立され、生徒が自主的・主体的にサークル活動に参加し、いじめ撲滅を目指して組織的な活動が始まった。そして、その活動はいじめ問題の解決だけにとどまらず、生徒の人権意識の高揚を目指す活動にまで発展した。その学校での取組にならい、人権サークル「リバティ」を立ち上げた。現在、人権集会の企画・運営、人権劇の発表、人権宣言の作成などを活動の核として、地道に活動を続けている。

(2) 設立のねらい

「リバティ」は、生徒が人権問題を自発的に学習する場として設立された。「身近な生活の中から不合理なことやいじめ・差別を見抜き、自ら解決しようとする実践的態度を育てる」ことをねらいとしている。そして、「リバティ」の運営は、生徒の自主性・主体性を尊重し、自ら学ぼうとする姿勢を大切にしている。また、必要に応じて教師が適切にかかわることにより、生徒の人権意識を更に高揚させることも目指している。

(3) 組織構成と主な活動

各クラスよりメンバーを募集し、下図のような組織で活動する。



メンバー全員が出席する例会については、月1回（第2水曜日の放課後）、人権教室（空き教室）を新設し開催する。なお、毎週水曜日の昼休みに、正・副部長、顧問教師で例会企画会を開催し、例会が充実するよう準備を進める。例会での議題は「各クラスの生徒の生活状況に関する情報交換」をはじめ、「班別の活動状況の報告や活動全般に関する協議」「班テーマに基づく調査・研究の進捗状況の確認」などである。

(4) 教職員の支援体制

「リバティ」の活動は顧問教師3名が中心となって、指導・支援を行う。メンバーが作成したアンケート調査や集会活動などの計画案を、顧問教師が職員会で提案し、協議を経て教職員全体の共通理解のもと活動を行う。例会や例会企画会の活動状況についても、順次職員会において報告する。

(5) 活動の留意点

自主的なサークル活動であるため、活動時間の確保が一番の問題点である。アンケート調査の集計作業や集会活動の打合せ・準備など、時間を要する活動については、臨時に放課後の時間を利用する。なお、例会についても、部活動等の他の活動よりも優先するよう全校の共通理解を得る。

2 具体的な活動例 ～人権宣言の作成～

(1) アンケート調査の実施（A活動班）

年度当初の例会で、たとえば、「言葉によって傷ついている仲間がいる」との報告があると、「言葉の暴力をなくしていく取組について」というテーマで話し合いを行う。

その結果、全校生徒の実態を把握するためにA活動班が中心となりアンケート調査を行うようにする。

質問内容については、担当教師の助言を受けながら協議を重ね、「実態が確認できるもの」と「意識啓発につながるもの」とに分類し、アンケートを作成する。(資料1) 全校一斉にアンケートを実施し、分析を行うと、「言葉による暴力」が日常的に存在している問題点が明らかとなる。

第1回リバティアンケート	
()年 男子・女子	
新学期が始まって2か月がたちましたが、各クラスの状態はどうでしょうか。各クラスの状態を把握するために、アンケートを行います。あてはまる項目に○をつけてください。	
1	あなたは、現在、この〇〇中学校に言葉の暴力があると思いますか。
ア	かなりある
イ	すこしある
ウ	ない
2	あなたは、人から傷つくことを言われたことがありますか。
ア	ある
イ	ない
3	2で「ある」と答えた人に聞きます。
(1)	どのような言葉を言われましたか。具体的に書いてください。
(2)	言われたとき、どのような気持ちになりましたか。
(3)	言われたとき、誰かに相談しましたか。(複数回答可)
ア	友人
イ	先生
ウ	家族(保護者・兄弟)
エ	していない
オ	その他()
4	あなたは、人を傷つける言葉を言ったことがありますか。
ア	ある
イ	ない
5	4で「ある」と答えた人に聞きます。
(1)	それはどのような言葉ですか。具体的に答えてください。
(2)	それはあなたがどのような状態の時に言ったのですか。(複数回答可)
ア	自分がいらいらしている時
イ	思い通りにならない時
ウ	相手が悪い時
エ	くせになってしまっている
オ	その他()
(3)	人を傷つける言葉を言った後、どのような気持ちになりましたか。
ア	相手に悪いと思った
イ	自分がいやになった
ウ	何も感じなかった
エ	気分がすっとした
6	あなたは相手の立場に立って、人と接していますか。
ア	いつも考えている
イ	少しだけ考えている
ウ	ぜんぜん考えていない

資料1 アンケート用紙

(2) 人権集会の実施（B活動班）

アンケートの結果を受け、「言葉の暴力をなくするにはどうすればよいか」というテーマで人権集会を開催する。様々な議論の末、「みんなが言葉遣いを意識することができる宣言文を作ろう」という意見が出され、その内容も、「人の傷付く言葉を使う人」「周りで聞いている人」「直接言われている人」という三者の立場に立ったものにしてはどうかという意見が、大多数の生徒の支持を得る。

(3) 人権宣言の作成と活用（「リバティ」全員の活動）

「リバティ」の活動を核としながら、人権宣言の発案を受け、その公表にいたるまでは十分な話し合いをもつ。その間、クラス内での話し合い、アンケート調査の実施、保護者を交えての人権集会なども開く。そして、全校生徒の意見や思いを集約した人権宣言を策定・公表する。(資料2)

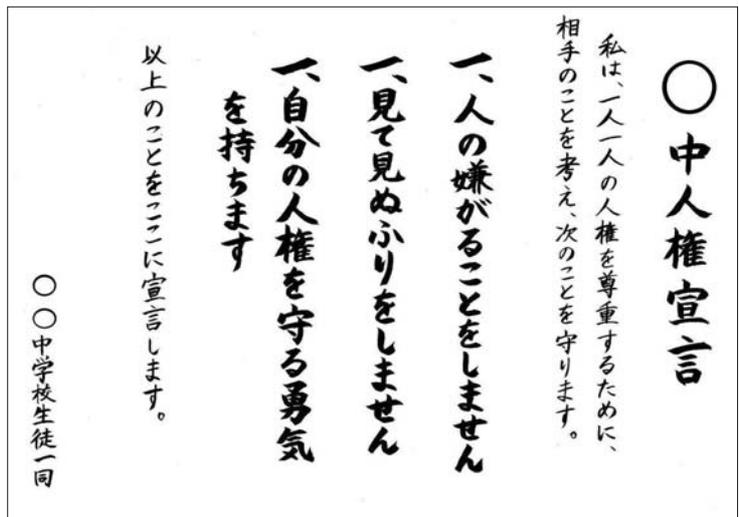
さらに、「リバティ」全員で、本校に入学してくる後輩たちへメッセージを添えるようにする。これにより、年度が替わり「リバティ」のメンバーが交代しても、人権宣言作成時の熱い思いが風化しないような配慮がなされる。

この人権宣言は、すべての教室の前面に掲示するとともに、人権学習の最初に「リバティ」のメンバーに続いて全員で復唱したりするなど、生徒の意識に定着するよう工夫する。

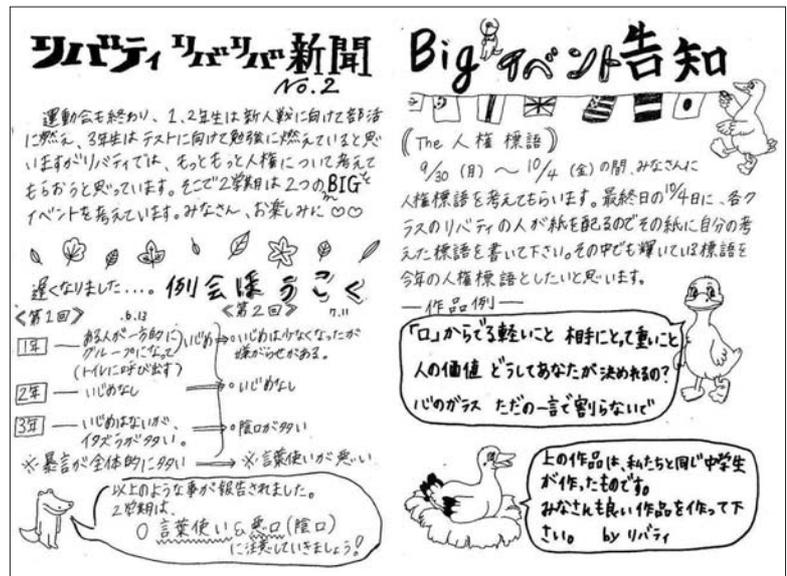
(4) 啓発活動（C活動班）

「リバティ」では、例会の協議内容や人権集会に関する内容等、いじめ問題だけでなく人権問題全般についての内容を盛り込んだ「リバティ新聞」を発行する。（資料3）

全校生徒が互いの人権について意識し、考える資料となるよう、生徒が作成した人権標語や人権をテーマとした詩を掲載するコーナーを設けるなど、内容の充実を図る。



資料2 人権宣言



資料3 リバティ新聞

3 活動を振り返って

ここに取り上げた事例は、人権サークル「リバティ」の活動の一端である。実際には教師と生徒の熱意と工夫で、いじめ問題をはじめ、様々な人権問題に対応できると考える。教師は生徒の活動を側面から支援することで、押し付けるのではなく、生徒が自主的・主体的に人権意識を身に付けることができる。子どもの自主性や正義感が急速にはぐくまれる中学校段階において、みんなが安心して楽しいと感じられる学校を自分たちの手でつくりたいとする、「リバティ」のような生徒の主体性を生かした活動を支援していくことが、生徒一人一人の人権を大切に作る学校づくりにつながるものと考えられる。

第3節 高等学校

1 望ましい人間関係づくり

最近、「人付き合いの苦手な生徒が多い」ということが指摘されている。幼少期より社会体験が不足し、他者とのかかわりも希薄なため、対人関係において苦手意識をもつことがその背景にあると考えられる。そのため、些細なことで口論になったり、心ない言動で相手を傷つける、といった例が見られる。

そこで、今回は生徒の人間関係づくりに焦点を当てて、三つの授業案を提示した。ワークシートや様々な事例をとおして、これまでの自分を振り返り、望ましい人間関係を築いていくために何が大切か、ということを生徒に考えさせることをねらいにしている。

2 指導のポイント

(1) 相手の立場になって考えさせる

人間関係の基本は、相手の立場になって考えることである。このことを理解させるためには、場面設定をして、生徒に疑似体験をさせることが効果的である。その際には、寸劇やロールプレイなどを取り入れ、生徒全員が相手の立場を体験することが望ましい。
→実践事例「私メッセージで伝えよう」(P25~27) 参照

(2) インターネットは特別ではない

ネットいじめや学校裏サイト等に関する報道を見ていると、インターネットが無機質で特別な世界を形成しているかのような感じを受ける。しかし、果たしてそうだろうか。確かに、現実の社会と違い、相手が不特定多数で見えないという特徴はあるものの、インターネットの向こう側にいる相手のことを考える、という点では同じである。授業では、インターネット等の特性を生徒に認識させたうえで、それを利用する際のルールやマナーが、現実の社会にもあてはまることを理解させたい。

→実践事例「ネットいじめに対する取組(プロフをとおして)」(P30~32) 参照

(3) 人間関係づくりから仲間づくりへ

人間関係づくりは、仲間づくりの土台となるものである。互いの人権を尊重し、信頼し合う人間関係を築くことにより、生徒はクラス等での居場所を確保し、他の生徒とのきずなを深めていく。それが、いじめを許さない仲間づくりにもつながる。

→実践事例「人間関係づくりに向けた取組」(P28~29) 参照

(4) 授業にあたっての留意事項

今回提示した指導案や資料はあくまで参考例であり、それぞれのクラスや学校に応じて活用していただきたい。また、「ネットいじめに対する取組(プロフをとおして)」については、他教科(情報)との連携を図ることが望ましい。

私メッセージで伝えよう

1 ねらい

言葉によるコミュニケーションの特徴を正しく理解させるとともに、相手を傷つけずに自分の気持ちを伝えるスキルを身に付けさせる。

2 本時の指導

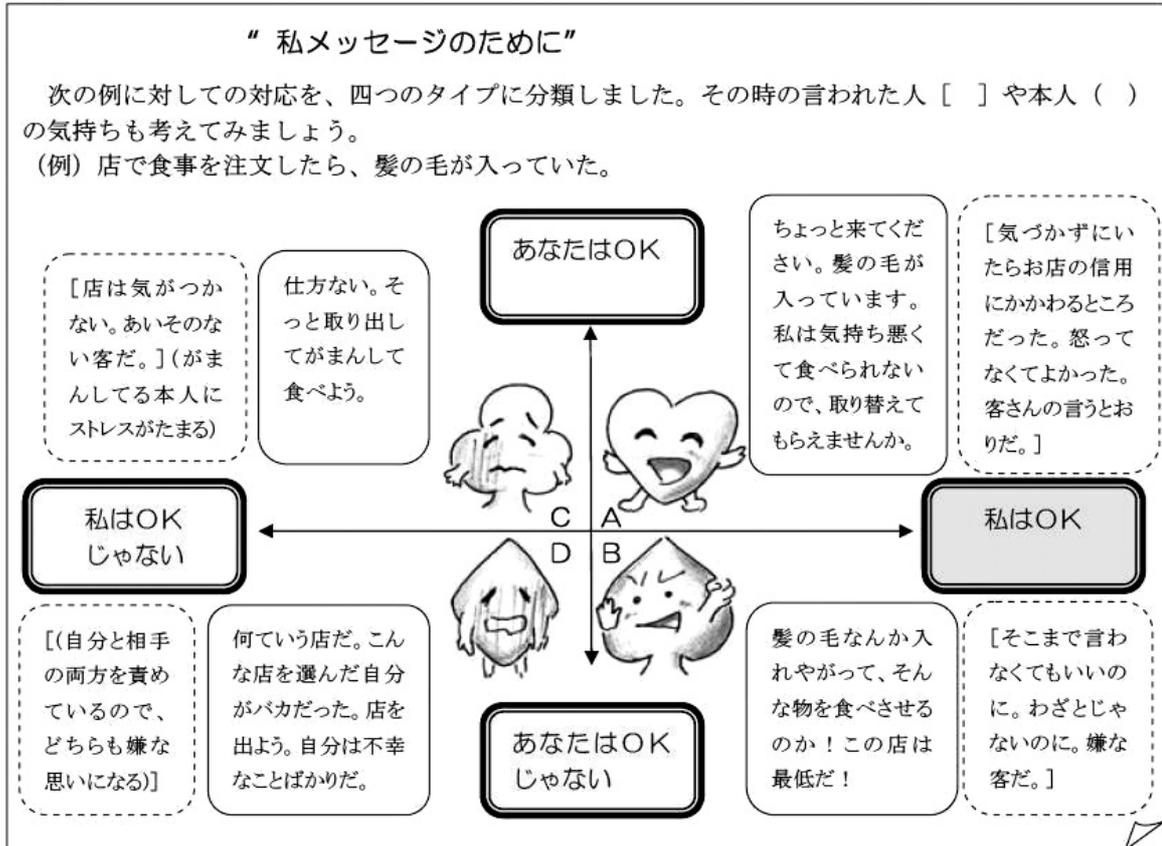
主題	言葉によるいじめをなくすために - 私メッセージで伝えよう -	
目標	1 相手を攻撃しないで、自分の気持ちを伝える方法の必要性を理解させる。 2 自分の思いを伝える方法を考えさせることで、それを日常生活で生かそうとする意欲や態度を身に付けさせる。	
	活動内容	指導上の留意点
展開	1 自己表現の4つのタイプを説明する。 2 事例を読んで考える。 (1) A子の言い方を、攻撃的な言い方と、私メッセージの両方で表現する。 (2) 言われてそれぞれどう感じたか話し合う。 (3) B子の言い方を考える。 3 表現方法を考える。 (1) 自分は、どちらの言い方が多いか振り返る。 (2) 自分たちの表現方法で気になるところはなかったか振り返る。 (3) どうすれば私メッセージの表現ができるか考える。	例をあげながら、4つのタイプを分かりやすく説明する。 (自己表現の四つのタイプ) 私メッセージがどのようなものかを理解させ、そのスキルを身に付けさせる。 攻撃的な言い方は、相手を傷つけるということに思いが及ぶよう働きかける。 →事例P26 受け止めの気持ちを出し合うことで、心地よさを感じさせる。 →ワークシートP26 普段の言動を振り返らせる。 私メッセージが、自分と相手のどちらも尊重した自己主張となることを理解させる。

3 資料

(1) 自己表現の4つのタイプ



積極的な自己表現—“私メッセージ”を身に付けよう



(出典：「OSAKA人権教育ABC」大阪府教育センター)

(2) 事例

A子：「B子、なんで、文化祭の係会に来なかったん？」

B子：「行こうとしよったときにC子がやってきて、『大事な話があるから聞いて』言うから、相談に乗っとたら時間が過ぎとったんよ」

A子：「C子のことも大事やけど、こっちの責任もきちんと果たしてよねえ」

B子：「そうは言うても、C子を放っておけんじゃない」

A子：「じゃあ、わたし一人で係会の進行をしたらええのと言うの」

B子：「困っている友達を放っておけんときもあるやろ。わたしだって、サボりたくてサボったわけじゃないんよ」

A子とB子はそれ以降、互いに口をきかなくなりました・・・。

(3) ワークシート

相手の立場に立って主張してみましよう！

ア A子とB子が、互いに納得するためには、自分の立場と気持ちを伝えると同時に、相手の立場と気持ちを尊重し、分かろうとすることが大切です。互いが相手を攻撃しないで自分の言い分を伝えるための言い方を考えてみましょう。

相手を攻撃しないで自分の言い分を伝えるためには・・・

相手がどのような立場や気持ちでいるのか想像し言葉にしてみる。

自分の立場だけではなく、そのことで自分が感じている気持ち（本音）も表現する。

「わたしは……と思う」「わたしは……と感じる」のように、わたしの立場で伝える。【私メッセージ】

相手に分かってもらえるように心を込めて伝える。

A子：「なんで、係会に来んかったん？」

攻撃的な言い方は、私メッセージになっていないことを理解させる。

例： わたしはB子が来てくれるのを待ちよったんよ。一人で進行するのはホントにしんどかったんよ。B子も分かるやろ。けど、C子にも何か大変なことがあったんやねえ。それで、大丈夫なん？

B子：「責めるような言い方せんでもよかる」

例： A子を待たせて悪いなあとは思ってたけど、そんな風に言われると、わたしも辛いなあ。係会に行こうとしたりしたら、C子が深刻な顔をして相談に来たんで、話を聞いてあげていたら、会が終わってしまったんよ。ごめんな。

イ 今後、同じようなことが起きたとき、互いに納得できる解決方法として、どのようなことがあるでしょうか。考えられる方法をあげてみましょう。

例

A子はB子の立場を理解するようにする。

B子はA子に事前に連絡を入れるか、会のあとにC子の相談に乗るようにする。

互いの気持ちを分かり合うようにする。

人間関係づくりに向けた取組

1 ねらい

相手の気持ちを理解しながら自分の気持ちを伝えることの必要性を理解させるとともに、仲間とつながることができるスキルを身に付けさせる。

2 本時の指導

主題	人間関係づくりに向けた取組	
目標	1 何気ない言葉や態度が相手を傷つける可能性があることに気付かせる。 2 良好な人間関係を築いていくためには、相手を思いやる態度が大切であることを理解させる。	
	活動内容	指導上の留意点
展開	1 寸劇を見て考える。 (1) 寸劇を行う。 (2) どこが問題かを考える。 2 良好な人間関係について考える。 (1) ワークシートをとおして考える。 (2) 各班で意見交換する。 (3) 各班で場面設定をして演じる。 (4) 良好な人間関係を築くために何が大切か考える。	場面ごとに問題点が伝わるように演じさせる。 →寸劇のシナリオ P29 普段の自分の言動に問題がないかを振り返らせる。 どのような言葉がふさわしいか考えさせる。 →ワークシート P29 言葉や態度によって、相手の受ける印象が異なることを理解させる。 これまでの自分の経験などをもとに場面を設定させる。 身振りや手振りを交えて、感情を込めて演じさせる。 相手を思いやる言葉掛けや態度が重要であることを理解させる。

3 資料

ア 寸劇のシナリオ

生徒どうしの会話です。

生徒 A：「今回のテストはずいぶん悪かったね」

生徒 B：「自分なりに勉強したつもりだったんだけど……」

生徒 A：「勉強してあの点か」

生徒 B：「次回のテストではがんばるよ」

生徒 A：「どうせだめだと思うけど……」

生徒 B：「……」

イ ワークシート

相手が失敗やミスをした場合、どのような言葉を掛けたらよいかを考えてみましょう。

場 面	思い浮かんだ言葉を書きましょう。
1 仲間がミスをして試合に負けた場合	今までの自分だと…… これからは……
2 家族が料理を作ったが失敗しておいしくない場合	今までの自分だと…… これからは……
3 高齢者が決められた日と違う日にゴミ出しをしている場合	今までの自分だと…… これからは……
4 自分たちで場面を設定してみよう。 例：クラスでの会話、部活動での会話、休み時間の会話など	役を決めて、シナリオをつくってみよう。

ネットいじめに対する取組（プロフをとおして）

1 ねらい

プロフの適切な利用を通じて、相手を思いやることと自他の人権に配慮した姿勢の大切さを考えさせる。

2 本時の指導

主題	プロフを通じた情報発信と権利の侵害	
目標	1 プロフの特徴を理解させるとともに、プロフへの何気ない書込みが、自他の権利の侵害につながるおそれがあることを理解させる。 2 なぜプロフに何気ない書込みをするのかを考えさせることによって、普段から相手を思いやることの大切さを理解させる。	
	活動内容	指導上の留意点
展開	1 プロフの特徴と問題点について考える。 2 書込みのルールとマナーについて考える。 3 よりよい人間関係の在り方について考える。	<p>プロフについて、電子メールやホームページと比較させる。 →ワークシート1 P31</p> <p>プロフへの書込みにより不快な思いをした経験などについて話し合うことによって、プロフの問題点を理解させる。 →ワークシート1 P31</p> <p>事例を通じて、プロフによるトラブルを未然に防ぐために心がけることを理解させる。 →ワークシート2 P32</p> <p>日常生活において相手の立場に立って考え、行動する態度を身に付けさせる。 →ワークシート2 P32</p>

* 指導時間や指導内容を考えると、展開の1については、事前に「情報」の授業などにおいて取り上げておくことが望ましい。

3 資料

(1) ワークシート 1

ア 以下のそれぞれの特色について、各項目に該当するものには 印を、該当しないものには×印を、どちらとも判断できないものには 印を入れてみよう。

	電子メール 	ホームページ 	プロフ 
だれでも見られる			
だれでも書き込める			

イ プロフを開設したり、見たりしたことがありますか。

ある	ない
----	----

ウ 今までにプロフを見て、嫌な思いや不快な思いをしたことがあれば、その内容を書いてください。また、それを書き込んだ人はどのような気持ちや思いで書き込んだと思いますか。




プロフとは

「プロフィール」の略。主に携帯電話で利用されており、インターネット上で自己紹介のページを作成できるサービスのこと。

(2) ワークシート 2

次の事例は、ある高校のA君（2年生）が立ち上げているプロフの一部です。彼は温厚な性格で、周囲からも信頼されています。高校入学時からプロフを立ち上げ、日々の思いを書き込んでいました。同じ部の同級生にはそのことを教えていましたが、先輩や後輩には教えていなかったようです。もちろん、プロフを閲覧するためのパスワードを設定していました。しかし、どこから漏れたのか、彼のプロフを部の先輩B君が見ることとなり、部内のトラブルに発展しました。

月 日 今日の練習もきつかったなあー。B先輩はいつもきびしいし。でも、大会前だから仕方ないか。まあ、がんばろう。

月 日 今日はほんとむかついた。B先輩たち、僕らには厳しいけど、自分たちは全然まじめじゃないし。1年に対してはあんまり言わないくせに。結局、言いやすいから僕たちだけにしか言わないんだ。

月 日 今日は試合に負けてしまった。だいたいB先輩のミスが悪いんだよ。いつもは威張っているくせに。まあ、でもいい気味だ。しばらくはおとなしくしているだろう。

ア あなたがB先輩の立場だとしたら、このプロフを読んでどう感じますか。

イ A君はプロフに書き込む時、どのようなことに配慮すべきだったと思いますか。

ウ トラブルがおこる前に、A君、B君ともにどのような言動をとるべきだったでしょうか。

（参考 『人権教育資料5 人権学習ワークシート集』岡山県教育庁人権・同和教育課）

1 いじめ問題と家庭教育

いじめ問題は、学校だけの取組では解決できません。いじめを生まない環境づくりにおいて、家庭が果たす役割は大きいといわれています。保護者だけでなく、子どもを取り巻く大人たちが、日常生活の中で自らの姿勢を示していくことをとおして、やさしい心を育てることが大切です。

いじめの未然防止については、家庭での食事やコミュニケーションの在り方など、日常的な視点から考えることができます。

家族のライフスタイルや食生活の変化が、対話や団らんなど家族で過ごす時間の減少につながってきています。親子のふれあいが少なくなっているだけでなく、朝食をとらないことや偏食など子どもたちに見られる食生活の乱れは、心身の成長に悪い影響を与えるとされています。子どもたちが、愛されていると実感できる家庭をつくるのが大切です。

2 資料のねらい

家庭での食事やコミュニケーションの在り方、主体的なものの言い方について家族で考えることをとおして、人権感覚豊かな思いやりのある子どもを育てる。

子どもの行動に関心を持ち、明るい日常生活を送ることができるよう、家庭の在り方を考える。

3 資料のテーマ

家庭における食生活と人格形成（資料1）

主体的なものの言い方（資料2）

家庭における望ましいコミュニケーションづくり（資料3）

家庭におけるいじめ発見チェックポイント（資料4）



こんな夕食どう？

1 ねらい

親子で毎日の食事について話し合うことで、食生活の重要性を理解するとともに、家族への信頼と愛情を育てる。



(財滋賀県人権センター発行人権・同和教育コミック素材集「あたりまえ?の構図」から転載)

2 話し合いの手順

(1) この絵を見て、どう思いますか？

「親の立場」として.....

「子どもの立場」として...

(2) このような食事が続けば、心と身体の調子は、どうなると思いますか？

「親の立場」として.....

「子どもの立場」として...

(3) 家族、それぞれの立場で、食生活で協力できることはないでしょうか？

「親の立場」として.....

「子どもの立場」として...

3 解説

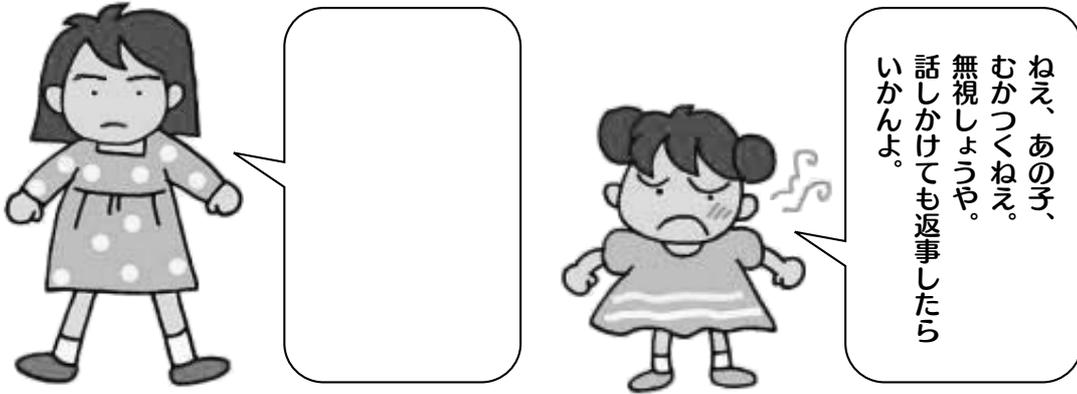
子どもの心と身体の健康を支えるために、食生活への配慮は、親の大切な役割です。親の都合で育ち盛りの子どものインスタント食品や、甘味料の多い飲み物ばかりを与えると、栄養のバランスを崩し、子どもの人格形成に悪い影響を与えます。子どものために栄養を考え、ちょっとした手料理をつくるなど、家族でそれぞれ工夫することが大切です。

食生活をとおして、家族どうしの信頼と愛情を育てることで、子どもは、自分が大切にされているという思いをもつことができ、他の人にもやさしくなれます。

家族みんなで、自分を大切にし、他の人も大切にすることができる子どもを育てましょう。

わたしが言いたいことは...

次のような状況に出会ったら、どう言えばいいと思いますか。
家族と一緒に考えてみましょう。



さて、家族で話し合ったことは、下のどれに近いかな？

受け身的 言われるまま 他人まかせ	攻撃的 相手を傷つける	主体的 言いたいことをきちんと言う
 <p>えー、なんで！ でも、まあ、べつにいいよ。 しょうがないよね。</p>	 <p>あんた、バカじゃないん？ 無視するなんて最低の人間じゃね。</p>	 <p>わたしはいやよ。何がむかつくんか、ちゃんと言うたらいいと思うよ。</p>
<p>自分が望んでいることを言わず、察してほしいと願うだけ。</p> <p>傷ついてもだれにもそれを伝えない。</p> <p>自分の人権を大切にしていない。</p>	<p>自分が望んでいることを他人に押しつける。</p> <p>人を傷つける言い方をする。</p> <p>他人の権利に鈍感で、それを尊重しない。</p> <p>相手に対して感情的・直接的に主張する。</p>	<p>自分の望んでいることを言葉に出して伝えられる。</p> <p>相手をやりこめない。</p> <p>自分が他人の権利を侵していないか、いつも考えている。</p> <p>「自分」が主体で、自信をもって主張する。</p>

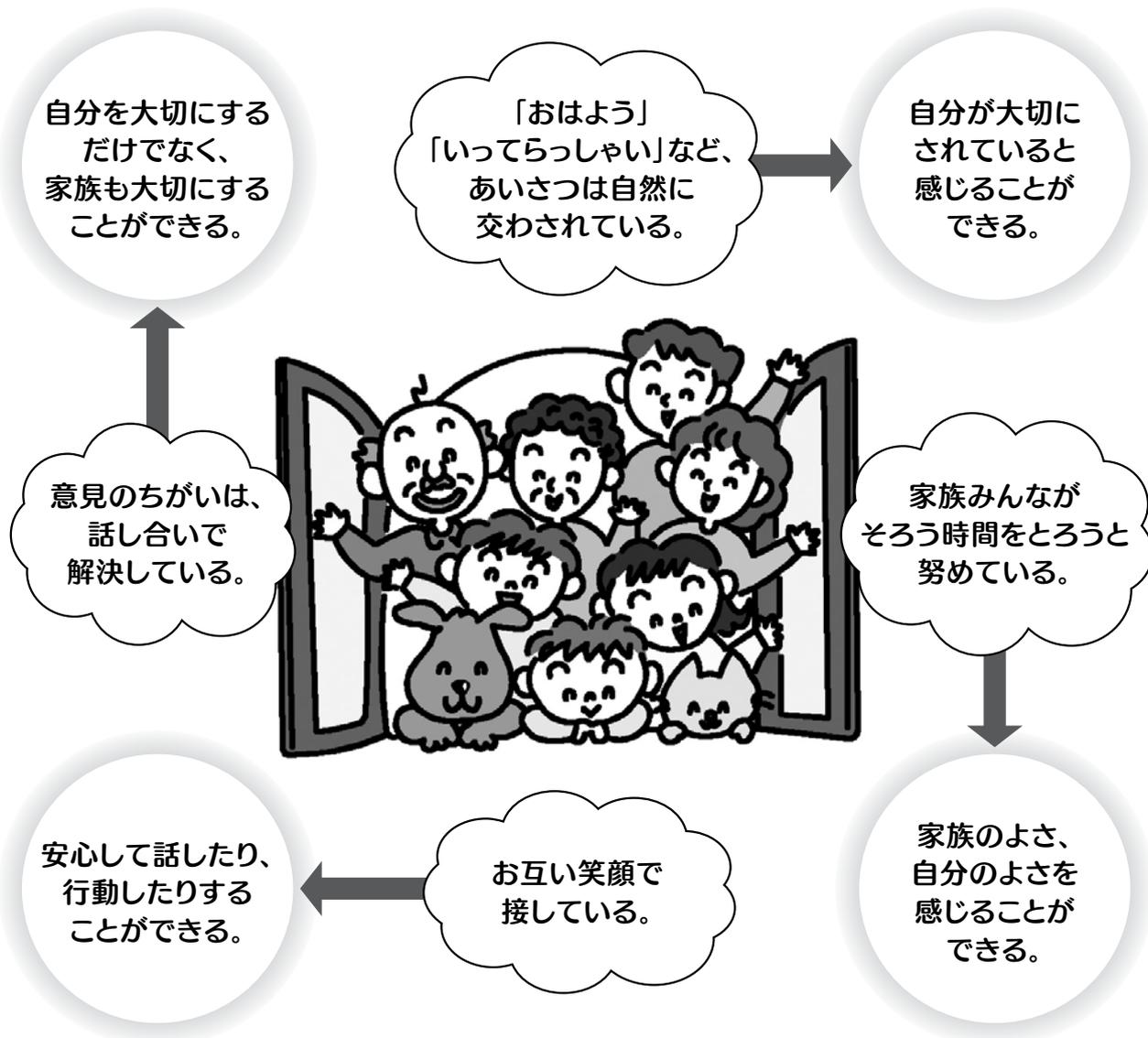
差別やいじめなどの問題に出会ったとき、ただ怒るというだけでは、解決できません。もちろん、言いたいことをがまんしていても解決はしません。

自分のことを大切に、言いたいことはきちんと言う。しかも、相手のことも大切に、自分が言いたいことをしっかり聞いてもらう。そのためには、どんな言い方がよいのか、家族で話し合ってみましょう。

(参考「21世紀の主人公になるために」大三島町同和(人権)教育推進委員会編集[一部改作])

家族のHappyコミュニケーション

思いやりの心を育てるために、あらゆる機会をとらえて、日頃から、子どもとの対話とふれあいに努めることが大切です。



家族のHappyコミュニケーションづくりの基盤は、温かな家族・親子関係です。

望ましい家族のあり方について、話し合ってみましょう。

家庭の中で自尊感情を育てながら、家族の一員としてのかかわりを大切にしよう。

きょうは、さんかん日。
あさ、おばあちゃんは、ぼくに
「きょう、みにいくからね。」と
いってくれました。
チャイムがなって、べんきょう
がはじまりました。ちよつとうし
るをむくと、おばあちゃんは、ぼ
くをみて「にこっ」としました。
おもいきって手をあげました。
しんぞうがドキドキしてきました。
そつとうしるをみると、やっぱり
おばあちゃんは、ぼくをみていま
した。

小学
一年生

子どもは、人から
認められ、大切にさ
れているという実感
をもつことによって、
人を大切にする気持
ちがめばえてきます。

出典 愛媛県教育委員会編「人権教育推進の手引」2002年

家族同士の対話やふれあいを大切にしよう。

小学校5年生になった娘は、新しい消しゴムや鉛筆を次々に欲しがるようになった。私は何ら疑うこともなく、学習に必要な物だからと、すぐ買ってやっていた。しかし、かわいいキャラクター入りの消しゴムを買ったばかりなのに、また、「別の消しゴムを買ってくれ。」と言ってきたので、さすがに不思議に思い、「この前買った消しゴムはどうしたの。」と、たずねてみた。娘は、小声で「なくしたの。」と言ったが、納得できないので、そのときばかりは、物の大切さを教えてやらねばと、どんなに娘が泣きすがっても買ってやるの見送った。

それから数日後、娘は学校に行きたがらなくなった。仲の良かった友達からの無視など、仲間はずれが原因だとはわかったが、なぜ、急に、娘が仲間はずれになったのか、どうしても理由は思い当たらなかった。

ある日、娘の部屋を片付けていると、娘の机の引出しから、今まで買った消しゴムや鉛筆がガラガラと出てきた。その中には、娘がなくしたと主張していた消しゴムも混じっていた。

その後、娘とよく話し合っているうちに、同じ文具にそろえている間は仲良かった友達から、その日を境に急に仲間はずれが始まったことに、初めて気が付いた。

出典 愛媛県教育委員会編「人権教育推進の手引」2002年

子どもが発する信号や子どもの心身の変化を鋭敏にとらえることは、保護者の役割です。我が子がいじめられていないか、また、いじめられていないかなどについて十分な目配りをしましょう。(次のページのチェック表を活用してみましょう)

家庭におけるいじめ発見チェックポイント

項目	観察の視点（特に、変化のあったときに注目する）
衣服や所持品	衣服が汚れたり、破れたりしている 学用品や所持品の紛失や壊された様子が頻繁にある 教科書・ノートなどに落書き・破損がある
身体	身体に傷やアザがあったり、鼻血を出した跡が見られる 入浴をいやがる（傷跡などを見られることを恐れる） 食欲がなくなり、体重の減少が伺える 頭痛・腹痛・吐き気・不眠を訴える
情緒	表情が暗くなり、親と視線を合わせるのを避ける 口数が少なくなり、学校や友人のことを話さなくなる イライラしたり、おどおどしてくる 特定の友人に強い憎しみを持つようになる
行動	夜や休日に呼び出されるようになる 隠れてコソコソ電話をかける 親や家族に乱暴したり、口答えや八つ当たりをする 外で遊ばなくなり、部屋に閉じこもる 電話のベルにおびえる ナイフなどを隠し持つことがある 余分な金品を要求する 財布などから金を抜き出す 問題行動をするようになる 異装・異髪をするようになる 欠席や遅刻をしたがる 理由を言わずに早退してくる 「学校が面白くない」などと訴える 学習意欲がなくなり忘れ物が多くなる 「転校したい」・「学校をやめたい」などと言う
その他	不審な電話がかかってくる 見かけなかった友人がよく訪ねてくる いやがらせの手紙や紙切れがある

* ひとつでも、チェックが入ったら・・・

子どもと話し合しましょう。

学校や関係機関（教育委員会・医療機関・警察署等）に相談しましょう。

保護者同士の情報交換をするなど、家庭の連携を深めましょう。

小さなシグナルを見逃さないよう、子どもの行動を見守りましょう。

ネット上のいじめの実態把握に向けて

現在、子どもたちの間で、インターネット上の電子掲示板等への書き込みによるいじめが社会問題となり、学校においても適切な対応が求められています。

愛媛県内の公立学校においても、平成20年度にパソコンや携帯電話等で誹謗中傷や嫌なことをされたといういじめが、小学校2件、中学校43件、高等学校10件（「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より）認知されています。

こういったいじめへの対応では、書き込みをした人物の特定が難しいばかりか、サイト閲覧にはIDパスワードが必要であるなど、把握すること自体が困難な状況ですが、ネットの見守り活動は重要です。

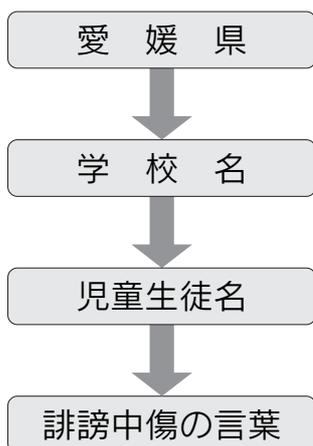
そこで、インターネット上のいじめについての理解を深め、監視活動を行ううえでの参考となるよう、学校非公式サイト（学校裏サイト）やプロフ等の検索方法について、幾つか紹介します。

（注） 子どもたちがよく利用する携帯電話専用サイトは、携帯電話での検索が必要です。

1 特定の学校名を入力して検索する場合

検索欄に次のキーワードを入力します。

（注） 複数のキーワードを入力する場合は、間に空間（スペース）を入れる。



入力方法を工夫してみよう。



一部を やアルファベット等の伏せ字や記号にする。
 （例）愛媛中学校……「 媛中学校」、「E媛中学校」
 太郎……………「T郎」

略称等で入力する。
 （例）愛媛中学校……「愛中」、学校 「学木交」

気になる生徒のあだ名を入力する。

検索結果が多いときは、「バカ」、「死ね」、「氏ね」、「市ね」… e t c 等の誹謗中傷の言葉を入力する。

2 特定の学校名を入力せずに検索する場合

パソコン上から学校裏サイト等を探す場合

- 学校裏サイトリンク集 全国webカウンセリング協議会
<http://www.web-mind.jp/gus/> (注)IDとパスワードの申請必要
- ふみコミュけいじばん→地域→四国 <http://www.fumi23.com>
- したらば掲示板 四国板ACADEMY <http://jbbs.livedoor.jp/travel/1180/>
- 愛媛県@全国高校別掲示板4K.cc <http://www.4k.cc/ehime/>
- ミルクカフェ 高校生掲示板 スレド一覧
<http://www.milkcafe.net/koukouseikatu/subback.html>
- ミルクカフェ 中学生掲示板 スレド一覧
<http://school.milkcafe.net/junior/subback.html>
- 高校生@3ch掲示板 <http://school.3ch.jp/koko/>
- あげじやぱん 全国中学校裏サイト <http://www.agejapan.com/> など

下記のキーワードから、リンク集を検索する場合

「小学校スレッド」	「中学校スレッド」	「高校スレッド」
「小学校掲示板」	「中学校掲示板」	「高等学校掲示板」
「学校裏サイト 中学校」	「学校裏サイト 高校」	

【入力例1】「学校裏サイト リンク 愛媛県」を検索する。

【入力例2】「高等学校掲示板 リンク 愛媛県」を検索する。

3 プロフサイトに勝手に画像や個人情報を載せられていないか調べる場合

検索サイト（Googleやyahoo!...etc）で下記の事項等を入力して検索する。

自分の名前 住所 携帯電話アドレス 携帯電話番号 あだ名

4 問題のある書き込みを見つけた場合

対処方法については、「いじめ問題の解決に向けて」の13、14ページ等を参考にしてください。

資料作成委員

西予市教育委員会学校教育課	指導主事	上甲 和也
西予市立城川中学校	教諭	堀内 良之
西予市立遊子川小学校	教諭	新川 幸恵
西予市立土居小学校	教諭	河野 修三
西予市立高川小学校	教諭	土居佐知子
西予市立魚成小学校	教諭	児島 浩子
新居浜市立角野小学校	教諭	千崎 雅美
松前町立岡田小学校	教諭	酒井 憲一
松山市立南第二中学校	教諭	住田 典子
八幡浜市立愛宕中学校	教諭	高田 宗典
愛媛県立北条高等学校	教諭	白石 隆二
愛媛県立松山南高等学校	教諭	甲斐 哲也
愛媛県立松山盲学校	教諭	黒田 慎治
新居浜市市民部人権擁護課人権啓発指導員		阿部由美子
八幡浜市教育委員会生涯学習課社会教育指導員		道休 明美

なお、人権教育課においては、次の者が本書の編集にあたった。

課長	宮崎 悟	課長補佐	大本 芳文
社会啓発係長	住野 秀志	学校指導係長	峯本 陽子
担当係長	柿本 久	指導主事	小黒 裕二
指導主事	越智 秀雄	指導主事	森 昭彦
指導主事	水木 悌三	指導主事	上田 正弘
指導主事	高岡 憲二	専門員	宮川 利光

いじめ問題の解決に向けて

発 行 平成22年3月

編集者 愛媛県教育委員会人権教育課

発行者 愛媛県教育委員会人権教育課

